

2009年3月19日

<プレスリリース>

「内外の化繊工業の動向（2008年年間回顧）」について

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会は、この度「内外の化繊工業の動向（2008年年間回顧）」
をまとめました。以下はその概要です。

担当： 業務調査グループ （Tel: 03-3241-2313）

概 要
(2008 年年間回顧)

2008 年のわが国の景気は、前半は原燃料価格の高騰、後半に入り「100 年に一度」と言われる経済危機に飲み込まれ、月を追う毎に状況は悪化を辿っている。

化繊景況は、衣料用は、消費者の中高級品を中心に買い控えなどによる消費の低迷、寝装・インテリア用は、マンション販売戸数及び自動車内装材の減少、資材用は、後半以降の景気後退による企業の設備費投資の先送り、在庫の圧縮、基幹産業である自動車的大幅な減産により環境は急速に悪化するなど、いずれの用途も厳しい一年であった。この結果、化繊生産は 8 年続けて減少となった。

国 内

1) 国内需要は、景気は原油価格の高騰により年初来弱含みで推移していたところに、後半の世界的な経済危機が加わり、大きく縮小した。衣料用は、レッグ関連、体型補正下着など一部好調な用途はあったものの、中国向け輸出織物の不振、大型小売店の販売額（商業販売統計）が年間を通じて前年比減少するなど中高級品を中心とした小売の不振により全般に低調に推移した。インテリア用は、カーテン、カーペット関連で、マンションの発売戸数の減少（首都圏 前年比 28.3%減、近畿圏 24.7%減）、新設住宅及び非居住用建築物の着工床面積が低調であったこと、またカーシートは自動車の減産の影響を受け 10 月以降大きく落ち込んだことから、年後半厳しさを増した。資材用は、自動車関連でタイヤコードは新車向けが減産の影響による落ち込みを市販向けがカバーしたことにより持ち応えた。シートベルト・エアバッグは新車向けであるため減産の影響を直接受け、後半以降悪化している。建築関連は、国内建築工事受注額（大手 50 社）は前年比 0.5%増と横ばいであった。このうち、80%弱を占める民間部門が不動産の不振により 4.7%減と 6 年振りに減少したが、公共部門は 29.4%増と 3 年振りに増加した。不織布分野は、堅調であった車両資材・生活資材用も景気の後退、製品輸入の増加の影響により、これまでのような勢いを失いつつある。

2) 生産指数は、繊維工業、化繊、紡績ともに月を追う毎に減少しており、前年比では、繊維工業は 8.9%減、うち化繊は 9.9%減、紡績は 9.6%減といずれも減少している。在庫（年末）は増加しており、繊維工業は 3.6%増、化繊は 9.4%増、紡績は 2.6%増といずれも増加している。（生産、在庫とも指数ベースの比較）

3) 繊維品輸出は、ドルベースで 91.2 億ドル、前年比 3.7%増、円ベースで 9,413 億円・8.9%減と 2 年振りに 1 兆円を切った。形態別（ドルベース）では、全体の 40%を占める

織物(前年比 1.8%増)をはじめ、糸類(3.8%増)、二次製品(8.2%増)と増加したが、繊維原料は2.2%の減少となった。仕向地別(円ベース)では、全体の40%弱を占めている中国が欧米向け再輸出の不振により3,514.1億円・12.9%減と大幅に減少した。また米国(15.4%減)、欧州(3.6%減)、香港(15.8%減)、韓国(9.0%減)と軒並み減少している中、アセアン向けは横ばい(0.5%増)で推移し、うちベトナム(1.5%増)、タイ(1.7%増)は増加した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで332.3億ドル、前年比8.2%増、円ベースでは3兆4,303億円・4.9%減と減少した。入超額は、241億1,186万ドルと史上最高を記録した。形態別(ドルベース)では、繊維原料は7.3億ドル・11.1%増、糸類は12.1億ドル・4.6%増、織物は12.7億ドル・5.7%増、二次製品は300.1億ドル・8.4%増と増加した。仕出地別(円ベース)では、全体の90%が東南アジアからであり、うち中国が2兆5,962億円(4.6%減)と75%を占めている。次いでイタリア1,364億円(15.3%減)、ベトナム1,075億円(6.5%増)、韓国622億円(8.6%減)、米国600億円(11.6%減)となっている。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	06.1-12	07.1-12	08.1-12	06年比(%)	07年比(%)
繊維品	1000ドル	8,404,526	8,788,011	9,115,124	8.5	3.7
輸出	百万円	977,530	1,033,426	941,304	-3.7	-8.9
繊維品	1000ドル	30,472,277	30,695,646	33,226,987	9.0	8.2
輸入	百万円	3,547,550	3,608,493	3,430,275	-3.3	-4.9
繊維原料	1000ドル	686,012	660,856	733,902	7.0	11.1
	百万円	79,767	77,810	75,911	-4.8	-2.4
その他	1000ドル	29,786,265	30,034,790	32,493,085	9.1	8.2
	百万円	3,467,783	3,530,683	3,354,364	-3.3	-5.0
二次製品	1000ドル	27,455,146	27,675,557	30,011,655	9.3	8.4
	百万円	3,196,821	3,252,918	3,097,605	-3.1	-4.8
輸出レート	円/ドル	116.3	117.6	103.3	-11.2	-12.2
輸入レート	円/ドル	116.4	117.6	103.2	-11.3	-12.2

(出所)財務省

5) 化繊生産は107.1万トン、前年比10.2%減と8年続けて前年割れとなり、1966年の97.0万トン以来の低い水準となった。うちセルロース繊維は、好調を続けていたレーヨンSはブームの終息により前年比減少したが、アセテートトウの増加により、16.9万トン・6.7%増であった。合繊は、アクリルSの大幅な減少(38.7%減)をはじめとして主力品種が軒並み減少したため、90.2万トン・12.8%減であった。合繊が100万トンを割ったのは1966年以來である。期末在庫は、需要の減少により12.5万トン・12.9%増であった。操業率はフィラメント、ステープルともに60%を切った。

化繊輸出（繊維原料～二次製品）は好調であったレーヨン S の減少（11.6%減）、アクリル S の大幅減（34.5%減）により、65.8 万トッ・11.9%減と前年の増加から一転 2 桁の減少となった。ナイロン F 7.0%減、ポリエステル F 0.2%減、ポリエステル S 14.1%減といずれも減少した。合繊紡績糸は 21.1%の大幅減。合繊織物（面積ベース）は、長繊維織物が 7.4%減であったが、短繊維織物は 1.7%増加した。また化繊不織布（重量ベース）は長繊維が 3.2%増であったが、短繊維は 7.4%減となった。

化繊輸入（繊維原料～二次製品）は 120.7 万トッ・3.6%増と引き続き増加している。このうち短繊維が 5.9 万トッ・33.9%増と急増しており、また 70%以上を占める二次製品は 86.2 万トッ・3.6%増、うち衣類は 46.4 万トッ・2.2%増であった。

化学繊維の主要指標

項 目	単 位	06.1-12	07.1-12	08.1-12	06年比(%)	07年比(%)
化繊生産	千トッ	1,209	1,193	1,071	-11.4	-10.2
セルロース	"	149	158	169	13.7	6.7
合 織	"	1,061	1,035	902	-15.0	-12.8
化繊在庫	"	105	111	125	18.9	12.9
セルロース	"	12	12	17	39.8	42.1
合 織	"	93	99	108	16.1	9.3
化繊輸出	千トッ	732	747	658	-10.2	-11.9
	100万ドル	4,919	5,260	5,484	11.5	4.3
	億円	5,721	6,186	5,665	-1.0	-8.4
化繊輸入	千トッ	1,131	1,165	1,207	6.7	3.6
	100万ドル	10,657	11,589	13,200	23.9	13.9
	億円	12,422	13,580	13,593	9.4	0.1

（出所）経済産業省、財務省

（注）在庫は生産者在庫で各年末

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステル F：生産は 243,552 トッ・前年比 6.9%減と 4 年続けて前年実績を下回った。織物生産は 5 億 8,108 万㎡・5.2%減と前年の増加から一転減少となった。用途別では、衣料用は主力の婦人用をはじめ、裏地用、スポーツ用、ユニフォーム・ワーキング用など全ての分野で苦戦を強いられた。産資用では、主力の自動車関連が北米国向け自動車輸出に支えられ、比較的堅調に推移していたが 10 月以降は自動車の減産により需要は一気に縮小し悪化した。これ以外の用途についても景気後退の影響を受け悪化している。輸出ではフィラメントが 36,591 トッ、前年比 0.2%減とほぼ横ばいであったが、6 年連続で前年を下回った。織物は 3 億 7,594 万㎡・9.2%減と 2 年続けて前年を下回った。一方フィラメント輸入は 103,835 トッ・0.7%増と前年に続き 10 万トッ台に乗った。最大の台湾からは、47,852 トッ・16.3%減であったが、インドネシア（14,714 トッ・13.1%増）、米国（14,714 トッ・14.7%増）は増加した。

ポリエステルS：生産は190,983ト、前年比6.3%減と2001年から8年続けて前年実績を下回った。用途別では、紡績用途はトープ向けなど堅調な用途も見られたが国内紡績スペースの縮小により投入量は減少、製綿用途は布団関係の販売不振と海外素材へのシフトにより同じく減少している。不織布用途は生活資材や車両資材向けを中心に堅調に推移したが、秋以降は世界的な景気悪化により落ち込んだ。輸出は37,988ト・前年比14.1%減、主力仕向地は、タイ(11,914ト・前年比0.7%減)、中国(6,283ト・14.4%増)、米国(3,678ト・20.3%減)、ベルギー(3,220ト・25.2%増)である。輸入は24,907ト・49.8%増と大幅に増加した。仕出国では韓国、中国に加え、タイ、マレーシアから増えている。

ナイロンF：生産は112,001ト、前年比3.9%減と2001年から8年続けて減少した。織物生産は1億3,186万㎡・4.4%減であった。用途別では、衣料用は、昨年引き続きカラータイツ、レギンス、体型補正用インナー、トリコット輸出など堅調な用途はあったが、全体では盛り上がりには欠けた。非衣料用は、秋までは堅調に推移したが、景気後退の影響により秋以降急速に悪化した。自動車関連では、タイヤコードは市販用、大型タイヤ需要により底堅い動きであった。その一方、エアバック、ラインマットは自動車の減産の影響を受け秋以降急速に悪化した。タイルカーペットは「改正建築基準法」の影響に加え、景気低迷により環境は悪化した。フィラメント輸出は、22,946ト・7.0%減、普通糸が5,611ト・26.8%減と大きく減少。強力糸は15,092ト・0.9%減とほぼ横ばいであった。フィラメント輸入は、27,344ト・7.5%増であった。加工糸(主にカーペット用)(13,180ト・6.9%増)、普通糸(10,143ト・10.4%増)の増加が目立った。仕出国別では、米国6,571ト・1.0%増、ドイツ4,549ト・6.0%増、中国4,296ト・3.6%増などが増加した。

アクリルS：原料のアクリロニトリルの高騰による原綿価格の上昇により、ポリエステルなどの他素材への代替が急速に進んでいる。生産は144,969ト、前年比38.7%減、また紡績糸生産も14,088ト・13.8%減とともに大きく減少した。主力の中国向けステーブル輸出が現地における素材の代替、欧米向け再輸出品の不振により61,523万ト・49.6%減と大きく減少したところが大きい。用途別では、衣料用はインナー関連が好調に推移、また靴下も機能性が再評価されるなど全体として下げ止まり感が見られた。建築寝装用では、毛布中心にポリエステルへの素材代替の急速に進展しており苦戦を強いられた。中国以外のステーブル輸出は、イランが21,649ト・39.4%減と前年の増加による現地在庫の積み増しと円高により減少したが、インドネシア(15,753ト・21.3%増)、米国(11,146ト・28.0%増)、ナイジェリア(7,063ト・35.3%増)向けは増加した。

海外

7) 韓国の繊維景況は、世界的な景気減速が強まるなか、年後半からは非常に厳しい環境となった。合繊生産は前年比 7.7%減の 133.0 万ト、5 年連続で前年実績を下回った。主要合繊の生産はナイロン F が 9.4%減の 13.1 万ト、ポリエステル F が 4.1%減の 68.0 万ト、ポリエステル S が 11.0%減の 47.7 万ト、アクリル S が 16.8%減の 4.3 万トと軒並み前年実績割れとなった。繊維品輸出は前年比 0.8%減の 133.4 億ドルとなった。年前半は、主力の織物輸出を中心に堅調に推移していたが、年後半、世界同時不況の影響から、大きく輸出が落ち込んだ。段階別にみると、繊維原料は 2.9%減の 10.0 億ドル、糸類は 7.7%減の 13.4 億ドル、織物類は 3.2%増の 82.1 億ドル。対米輸出回復の契機と捕らえている韓米 FTA の発効が遅れている。繊維産業の競争力復権と期待した開城工団の活用は、李政権の対北朝鮮融和政策見直しによって、その事業が行き詰まり、進出企業に影響が出ている。繊維品輸入は前年比 1.9%減の 87.4 億ドルと過去 2 年の 2 桁増から内需不振の影響で減少に転じた。

8) 台湾の繊維景況は、年後半の世界同時不況の影響が生産、貿易に強くあらわれた。繊維生産指数は、紡織産業は前年比 11.7%減、衣類産業は同 16.7%減とともに 10%を超える大幅な減少となった。台湾島内の繊維産業は、中国製品の輸入規制撤廃や対中投資規制緩和が進み、中国との関係が強まる一方、輸入急増や空洞化が進んでいる。化合繊生産は前年比 18.3%減の 198.7 万トと 4 年連続で前年実績割れ、1991 年以來の 200 万ト割れとなった。主要品種の生産は、ポリエステル F は 17.0%減の 101.5 万ト、ポリエステル S は 13.9%減の 47.4 万ト、ナイロン F は 20.6%減の 30.5 万ト、アクリル S は 38.6%減の 8.4 万ト。繊維品輸出は前年比 6.0%減の 109.0 億ドルと 4 年連続で前年実績割れ、これまで堅調に拡大を続けてきた中国向けも 5.8%減となった。合繊ファイバー輸出は 4 品種とも前年比 2 桁減となった。繊維品輸入は前年比 1.8%増の 27.0 億ドル。中国からの輸入が、製品を中心に拡大を続け、全体では 15.1%増の 7.8 億ドルとなった。

9) 中国の繊維成長率は、これまでの高成長から一転大幅な鈍化となった。繊維総生産額、固定資産投資額、企業利益総額などの主要経営指標は、軒並み前年に比べ悪化している。繊維生産は各段階とも 1 桁の伸びにとどまった。化合繊生産は 2.3%増の 2,405 万ト、紡績糸が 8.1%増の 2,149 万ト、短繊維織物は 5.3%増の 528 億 m、衣類は 4.8%増の 207 億点となった。一方、不織布生産は限塑令発令によるレジ袋規制から大幅に需要が拡大 21.3%増の 76.5 万トとなった。化繊生産を品種別に見ると、生産の 8 割超を占めているポリエステルは 4.4%増の 2,005 万ト、ナイロンは 5.2%増の 102 万トと増加したが、アクリルが 24.6%減の 60.4 万トと大きく減少した。

レーヨンもここ1-2年のブームが終焉、10.2%減の132万トと減少に転じた。繊維輸出は前年比8.1%増の1,872億ドル、紡織品は16.6%増と増加したが、衣料が4.1%増にとどまった。中国政府は、2008年8月、11月の2度、繊維製品に対する増値税の還付率を上げたが、人民元上昇、人件費の高騰、原料コストの高騰などにより、その効果は限定的であるとの見方が多い。繊維製品輸出を仕向け地別にみると、2007年末で規制終了のEU向けは36.7%の大幅増となったが、景気減退の米国向けは1.0%増にとどまった。繊維品輸入は1.8%減の256.0億ドル、繊維原料は4.8%減の71.0億ドル、紡織品は2.5%減の162.3億ドル、衣類は15.3%増の22.8億ドルとなった。

10) 米国の化繊産業は、引き続き住宅市場の不振によるカーペット生産の減少、国内紡織産業のさらなる縮小、自動車産業の不調による産資用の低調という厳しい環境の中、工場閉鎖や企業破産も加わり、大幅な生産減を続けている。不況による国内消費の冷え込みから、域内紡織は縮小が加速。増加を続けていた繊維輸入も減少に転じた。

化繊生産は、前年比16.0%減の293.7万トと5年連続の減少となった。稼働率は前年の82.3%から74.9%に低下。用途別では、リセッションによる個人消費の冷え込みで、衣料やホームテキスタイルなど紡織用は不振色を強めている。自動車生産の減少などから産資用も減少した。カーペット用は、新規住宅着工件数の更なる落ち込み（前年比33%減の90.4万戸、1959年以来の低水準）により縮小を続けている。

繊維製品輸入は同3.3%減の932億ドル。中国が1.1%増の324億ドル、ベトナムが19.0%増の54.3億ドルなどが増加し、近隣のCBI諸国やメキシコは減少している。

11) 欧州（西欧＋中東欧＋トルコ）の化繊工業の景況は、域内市場の不振や産業活動の鈍化により、紡織用、産資用、カーペット用ともに減少基調で推移し、ポリエステル、アクリルの生産は2桁減となった。厳しい事業環境の中、企業のM&Aや倒産、工場閉鎖などリストラの動きが続いている。

域内の紡織・衣料産業は、年後半にかけ停滞感が強まった。2008年のEU27の紡織・衣料産業の生産指数は前年比6.1%の低下であった。

繊維輸入は年後半にかけ減少基調に転じ、年間では7.3%増の1,181億ドルであった。輸入規制が撤廃された中国や低コストのバングラデシュやベトナムからの輸入が2桁増となった一方、トルコやインドネシアからの輸入が減少した。

J C F A

合繊4品種需要実績

・ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン)

		2008年10～12月 実績	対前期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	24,175	88.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	48,722	91.8
	計	72,897 (23,721)	90.5 (93.9)
輸出 (原糸、加工糸)		4,434	78.1
需要計		77,331	89.7
在庫		27,626	112.3

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン)

		2008年10～12月 実績	対前期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,961	86.4
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	33,496	88.4
	計	39,456 (7,683)	90.2 (130.0)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		6,343	66.5
需要計		45,799	86.0
在庫		29,336	114.5

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン)

		2008年10～12月 実績	対前期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	10,016	92.4
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,340	83.3
	計	26,356 (5,605)	86.6 (76.4)
輸出 (原糸、加工糸)		3,369	75.0
需要計		29,725	85.1
在庫		16,639	116.4

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・アクリルステーブル需要実績

(単位:トン)

		2008年10～12月 実績	対前期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	4,011	74.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,799	74.4
	計	6,810 (521)	74.3 (112.0)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		15,135	53.5
需要計		21,945	58.6
在庫		15,416	113.3

(注)国内需要の()内数値は輸入量